



「新しいこと・はじめてづくし」の素晴らしい2学期となりました

～校長先生・冬休み後の講話より～

私自身の長い教員生活の中でも、一度も経験したことのない「はじめてづくし」ばかりの2学期となりました。そのような中、3年生を中心に様々な行事を立派にやり遂げてくれました。充実の2学期、素晴らしい2学期となりました。

「学校祭」。今年は「体育祭」「文化祭」について、期間をおいて開催された「新しい学校祭」となりました。内容も、例年通り、いや例年以上の充実した内容となりました。コロナ禍を吹き飛ばす、充実の学校祭となりました。生徒皆さんの力で、コロナの時代における「新しい学校祭」を創りあげてくれました。

「日帰りの修学旅行」。急な変更でしたが、中身のある楽しい修学旅行を創りあげてくれました。

「広島に行かなかった広島研修」。広島から被爆ピアノを持ち込み、リモートによる伝承者講話を行うなど、弥富北中学校体育館は広島そのもの。充実した広島研修となりました。

「キャンプではない1年生の校外学習」。本年度は全ての宿泊行事が中止となったため、リトルワールドでの校外学習となりました。楽しみつつ学びが深まるプログラムが実施できました。

その他、「お帰り弥北の輝く先輩(講師:「やとみまたはち」さん)」、「交通安全教室」、「スマホ安全教室」、「福祉実践教室」など、様々な行事を行いました。例年とは違う、新しい内容での実施となりました。

コロナ禍の中でも、3年生を中心にやり遂げた弥富北中の生徒の皆さんを、校長として誇りに思います。以前もお話しましたが、改めて次の3つのことをしっかりと再確認してほしいと思います。

1つ目は、「新型コロナウイルス感染症拡大防止のために『今』できることを再確認し、感染防止のために努力してほしい」ということです。自分が新型コロナウイルスに感染しないための努力はもちろんですが、感染させない意識が大切です。愛知県のデータでは、PCR検査陽性者の95%程度が、軽症か無症状だったそうです。自分では分からないうちに、感染している場合もあるかもしれません。だからこそ、「人に感染させない」という意識で、自覚した行動をとってほしいと思います。

2つ目は、「医療関係者への感謝の気持ちを忘れない」ということです。医療従事者の方々は、感染リスクを背負いながら、日々、皆さんのためにがんばってくれています。命を救う使命感で努力してくれている方々がたくさんいます。感謝の気持ちをもってほしいと思います。

3つ目は、「医療関係者や感染者とその家族、関係者に対して、差別をしたり偏見をもったりしないこと」です。最近、「医療関係者(看護師)」の方の中で、仕事を辞める人が増えているというニュースを目にしました。「仕事の大変さ」よりも「医療・看護に関する偏見」が影響していると報道されていました。とても悲しいことです。コロナ禍では、「私たちの人間性」が試されます。だからこそ、思いやりの気持ちを持ち、お互いに支え合う気持ちや意識が大切です。人権意識・人権感覚を高めてください。

コロナによって「新しい生活様式」となりました。その中でも「変わらないもの」があります。本校の校訓「至誠」は変わりません。「至誠」とは、「極めて誠実なこと」です。具体的には「真心をもって、人と接することができる人」、「人のために自分を生かすことができる人」などです。これは、コロナ禍の時代において、最も大切な「人間の生きる姿勢」だと思います。そのための行動目標として「基本の「ABC」を皆さんに示したいと思います。難しい言葉でいうと「凡事徹底」です。

今までの「あたりまえ」は「あたりまえ」ではなくなりました。では、コロナ禍における「あたりまえ」とはどのようなことでしょうか。私が考えた「あたりまえ(基本のABC)」については、3学期始業式で発表したいと思います。

それでは、健康に注意して、皆さん元気で3学期始業式が迎えられるよう、充実した冬休みを過ごしてください。